

価値創造の基盤

■ 環境

地球環境を守る企業であり続けるために

Page Jump **21** →

環境パフォーマンスデータ(2023年度)

Page Jump **23** →

■ 人財

KFCの人財育成

Page Jump **24** →

成長・活躍を支える制度

Page Jump **25** →

■ 地域

地域を支え、人を支える力強いブランドであるために

Page Jump **26** →

環境

地球環境を守る企業であり続けるために

私たちKFCは、限りある資源を大切に、環境を守るための取り組みを積極的に推進していきます。

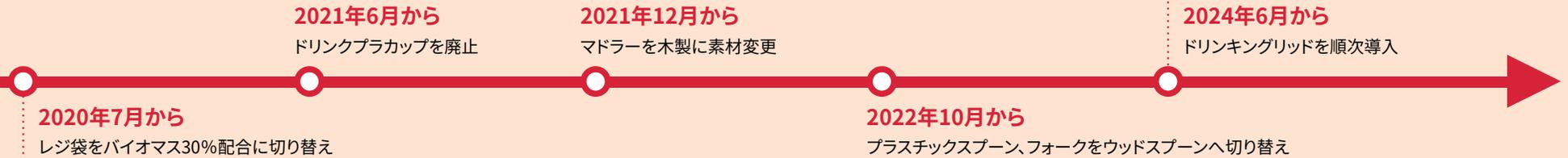
全店舗にストロー不要の「ドリンクグリッド」を順次導入

使い捨てプラスチック削減の取り組みの一環として、プラスチックストローが不要となる「ドリンクグリッド」を、2024年12月末頃までに全店舗^{*1}へ導入します。一般的な「ドリンクグリッド」に比べて厚みがない平らな形状となっており、よりプラスチック使用量が削減されます。また、素材には使用済みペットボトルをもとに生産されたポリエステル繊維「再生ペット^{*2}」を25%使用しております。

※1. 国内全店舗数:1,232店舗(2024年3月末時点) ※2. 再生PETは広く食品包材にも使用されています。



KFCのプラスチック包材削減に関する主な取り組み



バイオマス配合のレジ袋を使用

地球環境にかかる負荷をさらに減らし、持続可能な社会を実現するために、バイオマス配合率30%のレジ袋に切り替えました。加えて、現行のレジ袋を適切な厚みに見直すことで、プラスチックの使用量をさらに削減しています。



紙製パッケージにFSC®認証紙を使用

チキンを入れるバーレルやドリンクカップなど、すべての紙製包材はFSC®認証紙を使用しています。また、木製のカトラリーもFSC®認証を得た素材を使用しています。適切に管理された森林から産出・加工された紙や木材を使用することで、自然環境にかかる負担を大きく減らせると考えています。資材を変更するだけでなく、紙の使用量そのものを減らす努力も継続していきます。

環境

地球環境を守る企業であり続けるために

食品ロス削減の取り組み

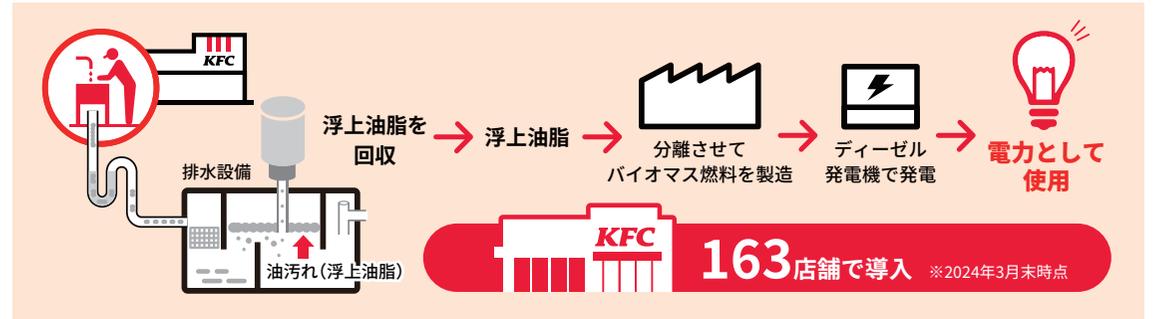
食品リサイクルを実施

食品リサイクルを千葉県内の一部店舗で実施。店舗から排出された食品廃棄物は、専用の工場に運ばれ、堆肥化されます。できた肥料を使用してケールを栽培、そのケールを使って商品化するという活動にKFCが賛同し、食品リサイクルへ取り組んでいます。



産業廃棄物の再生エネルギー化

店舗の調理機器を洗浄するときどうしても油汚れが流れ出てしまい、これらは産業廃棄物となります。KFCではこの油汚れ(浮上油脂)を回収してバイオマス燃料を製造し、ディーゼル発電機で発電するシステムを導入しています。



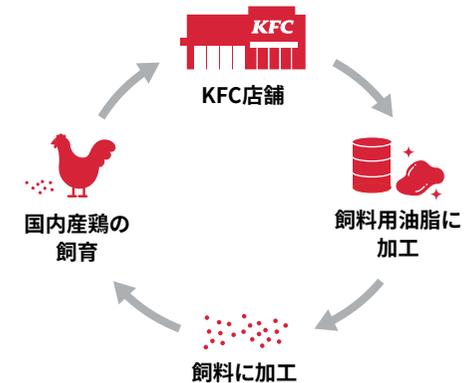
RSPO認証を得たパーム油を使用

アブラヤシからつくられるパーム油は、世界で最も多く生産・消費されている植物油です。パーム油の生産に伴う森林伐採が、熱帯雨林の破壊や温暖化を引き起こす要因だとされています。2017年から、KFCのフライオイルはRSPO認証 (Mass Balance) を得たパーム油を使用しています。



調理済み揚げ油を飼料として再利用

店舗で排出される調理済みの揚げ油を、KFC登録飼育農場で飼育している鶏の飼料として再利用しています。このリサイクルループは、飼料のひと粒ひと粒から飼育方法まで、厳しい基準の下で鶏を飼育しているからこそ実現できること。関西地区の直営57店舗の調理済み揚げ油を再利用しています。



環 境

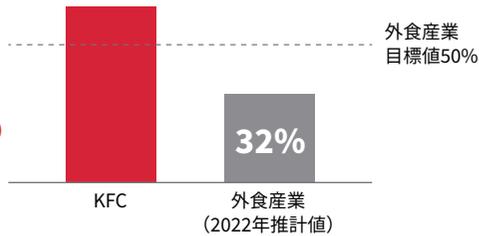
環境パフォーマンスデータ (2023年度)

KFCは環境負荷低減に取り組み続けています。

▶ 外食産業の目標値を上回る食品リサイクル率を達成

○ 食品リサイクル率

63.8%

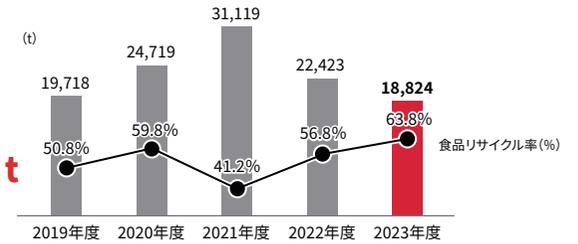


○ 廃食油リサイクル率

100%

○ 廃棄物排出量

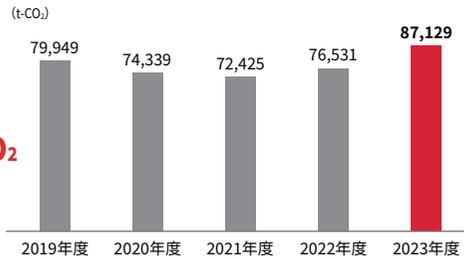
18,824 t



▶ 店舗の機器変更やエネルギー管理による、CO₂排出量削減の取り組み

○ CO₂排出量

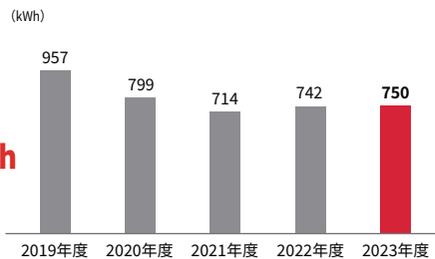
87,129 t-CO₂



▶ 売上100万円当たりのエネルギー使用量

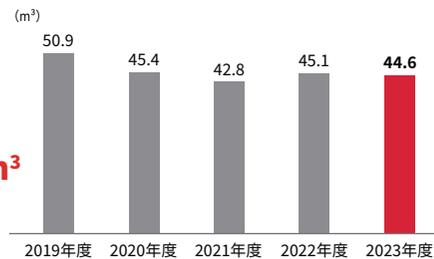
○ 電気使用量

750 kWh



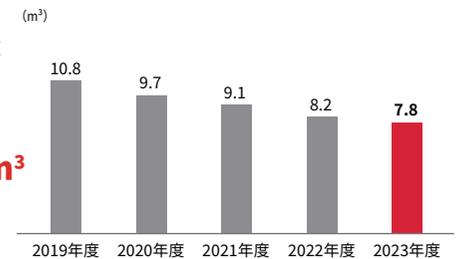
○ ガス使用量

44.6 m³



○ 水道使用量

7.8 m³



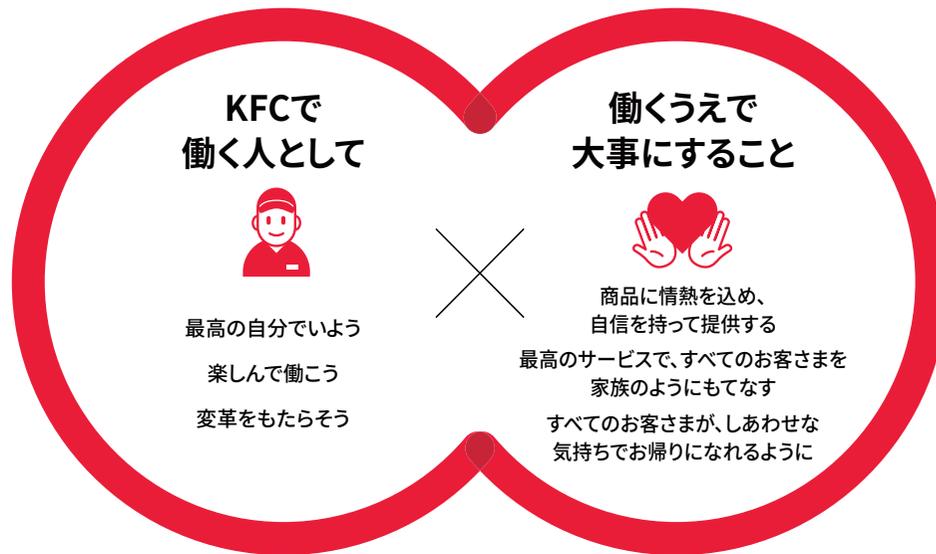
※集計期間：2023年4月～2024年3月
 ※数値はKFCチェーングループ全体(直営+FC店舗)を対象としています

人 財

KFCの人財育成

お客さまをワクワクさせるブランドであり続けられるよう自分を高め、仲間と互いに高め合う。常に変革を起こし続けるブランドであるには、人の成長が欠かせません。

▶ 人がブランドを創り、ブランドが人を創るピープルビジョン



最高の知識と技術を発揮する オペレーション競技会

CHAMPSチャレンジ

店舗で培った最高の調理や接客の技術を発揮する「CHAMPSチャレンジ」を開催しています。実際の店舗で実践形式で行い、動作のひとつひとつまで細かくジャッジし、評価・フィードバックを行います。それが個々のスキルアップと、店舗のチームワークとQSC×Hの向上に直結します。

※CHAMPSとは、お客さまがKFCに期待する6つの項目の頭文字

- Cleanliness 身だしなみや店舗は常に清潔か
- Hospitality おもてなしの気持ちを常に持っているか
- Accuracy 商品提供は正確にできているか
- Maintenance 施設のメンテナンスは行き届いているか
- Product quality 良質な品質を一定に保っているか
- Speed with service 迅速なサービスができているか



▶ 実現するための行動指針

賞 賛

仲間の頑張り認め、称える文化がKFCにはあります。とびきりの笑顔と「ありがとう」のひとつ言を忘れずにいることが、KFCで働くすべての人のモチベーションにつながります。

QSC × H

私たちKFCの仕事の基本です。お客さまにしあわせな気持ちでお帰りいただくためには、ひとつでも欠けてはいけません。そして、すべての行動に、おもてなしの心を忘れずに。



人財

成長・活躍を支える制度



ライフスタイルに合った働き方が選べる

限定社員制度

- エリア・店舗限定社員** 勤務する地域や店舗を限定できる。勤務時間数は、通常の正社員と同じ。
- 日時限定社員** 地域や店舗といった働く場所に加え、勤務日数・時間も限定できる。

個々の能力をさらに高める

賞賛の文化

チャンピオンカードを使って、仲間を賞賛する文化がKFCにはあります。店舗や従業員、パートナーを積極的に表彰して頑張りを認めることで、個々の意欲や能力をさらに引き出します。



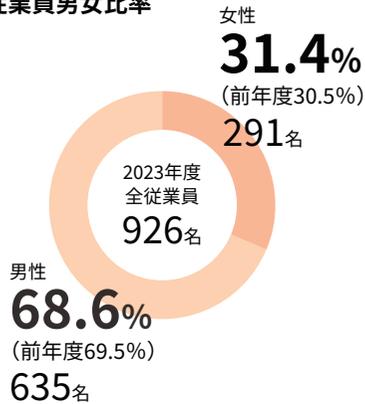
誰もがいきいき働ける

ダイバーシティへの取り組み

国籍や年齢、性別、障がいの有無などを超えて、すべての人が能力を発揮して活躍できる環境を用意しています。人がブランドを創る。そう考えるKFCにとって、個性は大切な財産です。育児・介護・治療との両立などのライフスタイルの変化に合わせた働き方の支援もしています。

日本KFCホールディングスグループ雇用情報 ※雇用情報は毎年3月末時点の数値を元に作成（「障がい者雇用比率」のみ毎年6月1日時点）

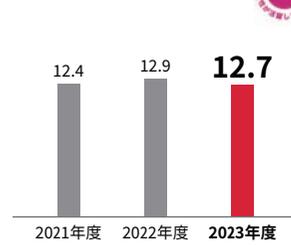
● 従業員男女比率



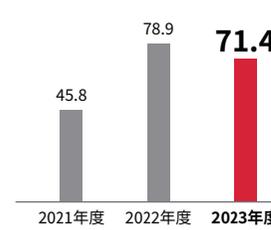
● 女性店長比率 (%)



● 女性管理職比率 (%)

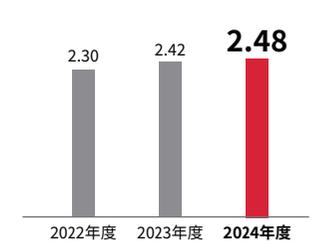


● 男性の育児休業等及び育児目的休暇*の取得率 (%)



*配偶者の出産／出産後育児をサポートすることを目的とし、最大5日の特別有給休暇（配偶者出産休暇）を与える独自制度（2021年4月から制度化）

● 障がい者雇用比率 (%)



● 健康経営

実績	2023年度 (%)
定期健康診断受診率	100.0
社内ウォーキングイベント参加率	88.5
有給取得率(社員)	54.5

2023年度実施内容

- 社内ウォーキングイベント：健康推進支援アプリを活用し、年2回開催
- 禁煙施策：禁煙セミナーの開催や禁煙成功者、非喫煙者にインセンティブを付与
- メンタルヘルス研修実施：セルフケア／ラインケア研修を実施



● KFCパートナー人数(パート・アルバイト)

※フランチャイズ社を含めたブランド全体

約**34,000**名



「くるみん」認定取得
社員の子育てを積極的にサポートする企業として、厚生労働大臣の認定を受けています。
※2020年以降継続取得



「えるぼし3段階」認定取得
女性活躍を積極的に推進する企業として、厚生労働大臣の認定を受けています。
※2022年取得



「健康経営優良法人」認定取得
優良な健康経営を実践している企業として、経済産業省の認定を受けています。
※2022年以降継続取得

地域

地域を支え、人を支える力強いブランドであるために

KFCは、日本全国に約1,200の店舗を構えています。地域のお客さまにご利用いただき初めて、店舗を運営することができます。創業者カーネル・サンダースの言葉を借りれば、「地域のお客さまは家族」。地域のお客さまなくして、KFCの店舗運営は成り立ちません。私たちは地域と、その地域に暮らすお客さま・従業員の未来のために、さまざまな取り組みを進めています。



国連WFP 「学校給食支援」

国連WFPは、途上国に暮らす子どもたちの栄養状態を改善するために、さまざまな国や地域で学校給食を提供しています。KFCはその想いに賛同し、2007年から活動を支援しています。国連WFPはその功績が認められ、2020年度のノーベル平和賞を受賞しました。



2007年からの累計金額
6億8,000万円

スペシャル オリンピックス日本



スペシャルオリンピックスは、知的障がいのある人たちに日頃のトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を提供しています。KFCは、スペシャルオリンピックス日本が発足した1994年から、活動を支援しています。



フードドライブ

自宅で余った食材などを横浜本社に持ち寄り、フードバンク横浜を通じて横浜市内のひとり親世帯などに寄付するフードドライブを行っています。「地域のお客さまは家族」というカーネルの言葉は、私たちKFC社員にも根付いています。

寄付した物資一覧

(2024年9月末時点累計)

段ボール

163箱分



- お米 237kg
- 乾麺 314袋
- レトルト食品 296袋
- 缶詰 268個
- 嗜好品 494個
- 生活用品 (タオル/せっけん/洗剤など) 1,401個 他



地域

地域を支え、人を支える力強いブランドであるために

こども食堂等へチキンを寄贈

閉店時に余ってしまうチキンを、ニーズのある場所に届けたい…



閉店時にまだおいしく食べられるチキンを廃棄することを、もったいなく思っていました。食品ロスへの取り組みが盛んになるなか、何かできることはないか…と方法を模索してきました。

海外のKFCを参考にチキンを寄贈する仕組みを構築

海外のKFCでのガイドラインを参考に、おいしさも安全性も担保した上でチキンを寄贈する仕組みを2019年11月に構築しました。調理済みの商品を食材としてこども食堂などに寄贈するのは、全国展開する外食企業としては初の取り組みです。



ルールにのっとって、安全・安心なおいしい食事を提供

チキンはルールにのっとって凍結保管され、こども食堂等へ届けられます。子どもたちの安全に配慮し、解凍後に骨を取り除き、さらに加工・加熱調理をして提供されます。



横浜市・川崎市・埼玉県・富山県・千葉県・沖縄県・宮崎市・長野県・鹿児島県・栃木県・徳島県・群馬県・兵庫県に支援の輪が広がっています

こども食堂などの支援活動に、KFCはサポーターとして加わっています。「もったいない」が「おいしさ、しあわせ」に変わるお手伝いをしています。



調理シーン



提供メニュー例

KFC 武者カーネル

1984年から続く地域活動のひとつ

こどもの日はファミリーのご来店が増えることから、当時の従業員たちが「お客さまに喜んでほしい」と、カーネル立像に手づくりの鎧・兜を着せたことが始まりです。この取り組みにも、創業者カーネルの想いが受け継がれています。

地域のお客さまとともに40年もの歴史を刻んできた「武者カーネル」。40周年を迎えた今年の展示店舗数は、過去最大の892店舗。カーネル立像未設置店舗ではミニチュアに扮した「カーネルフィギュア」も仲間入りし、過去最大規模で盛り上がりました。



氏家店 (カーネルフィギュア)



ヨークベニマル矢板店



南岩国店

地域

地域を支え、人を支える力強いブランドであるために

KFCおいしナブルキッチン **KFC** おいしナブルキッチン

「未来を担う子どもたちに、食の楽しさや大切さを伝えたい」との想いから2009年にスタートした「KFCキッズスクール」が、プログラム内容をさらに充実させて「KFCおいしナブルキッチン」としてリニューアル。「オリジナルチキン」の調理体験と試食を通じて、食の楽しさや大切さを参加者一人ひとりが“自分ごと化”して考え、体験しながらKFCのサステナビリティ方針の4つの軸である「Food(食)」「Planet(地球)」「People(人)」「Community(地域)」に対する取り組みも学ぶことができます。



衛生管理体験(手洗いの大切さ)



調理体験(オリジナルチキンの粉付け)



参加認定証授与後の記念写真

会社訪問

子どもたちに、KFCの「食」へのこだわりに親しんでいただきたいため、会社訪問を受け入れています。パネルやスライドでの説明の他、本社内の模擬店舗を見学するなど、楽しい体験の時間を過ごします。

2024年の実施事例

訪問されたお客さま

アメリカ山
ガーデンアカデミー株式会社

場所

日本KFCホールディングス株式会社

日付

8月26日(月)

人数

小学校1年生～小学校6年生:61名
付き添い教師・保護者:6名



本社内模擬店舗見学



日本KFCの歴史説明



オリジナルチキンでランチ

子どもたちは
カーネルくん
大興奮でした



本社内にあふれた
子どもたちの
元気な声で、
私たちもパワーを
もらいました

担当社員
の声



KFCに
興味津々で
とても
嬉しかったです

